

技術・家庭科(家庭分野)学習指導案

指導者 前田 愛友

- 1 日 時 令和 6 年 11 月 16 日 (土) 第 3 校時 (10:50～11:40)
- 2 学年・組 広島大学附属東雲中学校第 3 学年 1 組 計 20 名 (男子 6 名, 女子 14 名)
- 3 場 所 中学校家庭教室
- 4 題 材 名 エシカルアクションへの第一歩―消費行動が社会と環境に与える影響―
- 5 題材について

SDGs とは, 国連が掲げる「持続可能な開発目標」であり, 2030 年までに持続可能なすべての人々にとってよりよい, より持続可能な未来を築くために, 貧困や不平等, 気候変動, 環境劣化, 繁栄, 平和と公正など, 私たちが直面するグローバルな諸課題の解決を目指している。2024 年の日本の達成度は 167 カ国中 18 位で, 過去最低順位だった前年(166 カ国中 21 位)から 3 ランク上がった。しかし 17 の目標のうち, ジェンダー平等や気候変動対策など五つの目標が前年に続いて「最低評価」であり, 2030 年までに達成できそうなものは 16%しかないといわれている。今の中学生 3 年生は, SDGs について言葉では知っているが, どのような内容なのか, 世界の中でどんな問題が起きているのかは具体的には分かっていないことが多い。ただ, SDGs の取り組みが後約 5 年しかない, 世界の中で様々な問題が起きており, 改善していきたいという意識は高くもっていることが家庭科の授業を行う中で感じられる。

指導に当たっては, まず SDGs とは何なのか, 社会や世界の中で今何が起きているのかを考えさせ, 理解できるようにする。そして消費者として「選ぶ」という行為でどのように現状を変えていけるのかをグループで共有し, 実生活の中で生かすことができるようにする。

6 教材(題材, 単元)の目標

- (1) 購入方法や支払い方法の特徴, 計画的な金銭管理の必要性, 売買契約の仕組み, 消費者被害の背景とその対応, 消費者の基本的な権利と責任, 自分や家族の消費生活が環境や社会に及ぼす影響について理解するとともに, 物資・サービスの選択に必要な情報の収集・整理が適切にできる。
- (2) 物資・サービスの購入, 自立した消費者としての消費行動について問題を見出して課題を設定し, 解決策を構想し, 実践を評価・改善し, 考察したことを論理的に表現するなどして課題を解決する力を身に付けることができる。
- (3) よりよい生活の実現に向けて, 金銭の管理と購入, 消費者の権利と責任について, 課題の解決に主体的に取り組んだり, 振り返って改善したりして, 生活を工夫し, 創造し, 実践しようとする。

7 指導計画(全 7 時間)

時	学習内容
1	自分や家族の消費生活を振り返る, 物資・サービスの選択・購入
2	多様な購入方法と支払方法
3～4	売買契約の仕組みと消費者被害
5～6	消費者の権利と責任
7～9	消費行動が社会と環境に与える影響(本時 8/9)

8 本時の目標

自分や家族の消費行動が環境や社会に及ぼす影響を様々な視点から考え、自分のこととして長期にわたって考え、実行しなければいけないことを理解することができる。【知識・技能】

9 「教科等本来の魅力に迫るための教師の資質能力」との関連

基準	具体的な児童・生徒の姿
Ⅲ	自分や家族の消費行動が環境や社会に及ぼす影響について様々な視点から考え、自分のこととして長期にわたって考え実行しなければいけないことを考え、記述できている。
Ⅱ	自分や家族の消費行動が環境や社会に及ぼす影響を自覚する根拠を記述できている。
Ⅰ	自分や家族の消費行動が環境、または社会に及ぼす影響を根拠にしている記述が未記入である。
手立て【関連する教師の資質能力】	
近年の社会問題を取り上げ、自分とのつながりを考え、今・未来の私たちの生活につなげる視点。 【授業構想力】	
実際に作業をしたり、パワーポイントや実物を用意して実際に見たりすることで更に理解を深めていく授業を行う視点。【授業実践力】	

10 学習の展開

学習活動と内容	指導上の留意点（◆評価）
1. 前時の復習をする。	○ SDGs とはどのような内容なのか、今の段階ではどこまで達成できているのか等について PowerPoint を使用して時内容を振り返られるようにする。
「選ぶ」消費行動が社会と環境に与える影響を考えることができる	
2. 消費者がこれからの世界をよりよくするためにできることを考え、ポスター制作を行う。	○ 机間指導しアドバイスをすることで、日常の行動から世界の現状など色々な視点から考えがもてるようにする。 ○ 私たちが日常の中で「選ぶ」時に、品質や価格など表面上だけでなく、その背景を考えて「選ぶ」ことも大切だということも考えられるようにする。
3. 振り返り ・次回、完成した作品を発表し、調べたことをもとに今後の自分の生活にどう生かしていくか考えられるようにする。	○ 完成に近い作品を例に挙げ、考えが広がるようにする。 ◆ 自分や家族の消費行動が環境や社会に及ぼす影響を様々な視点から考え、自分のこととして長期にわたって考え実行しなければいけないことを理解することができる。 【知識・技能】